

議事録

件名	明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会 第2回 里地里山保全利活用専門部会(概要版)
日時	平成 26 年 10 月 17 日(金) 14:00~16:00
場所	明治大学黒川農場 本館 1 階 1-102 会議室
出席者	明治大学黒川農場 三谷客員教授 セレサ川崎農業協同組合 梶常務理事 黒川はるひ野管理組合 野島会長 神奈川県横浜川崎地区農政事務所 小嶋地域農政推進課長 川崎市経済労働局農業振興センター農業振興課 永江主任 川崎市経済労働局農業振興センター農地課 古山保全係長 川崎市経済労働局農業振興センター農業技術支援センター 久延係長 川崎市麻生区役所企画課 蛭川課長補佐 川崎市麻生区役所道路公園センター整備課 高橋担当課長 (事務局) 建設緑政局緑政部みどりの協働推進課 古屋担当課長 青柳担当係長 コンサルタント(URリンクージ 正司主幹、遠藤課長補佐、岸本)
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回 里地里山保全利活用専門部会 次第 ・第2回 里地里山保全利活用専門部会 名簿 ・第2回 里地里山保全利活用専門部会 座席表 ・第2回 里地里山保全利活用専門部会 説明資料 ・黒川地区 農と環境を活かしたまちづくり 基本情報(案) ・親子で楽しむ里山体験ツアーチラシ ・どんぐりでやじろペーを作る ・篠竹の紙鉄砲<作り方>
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・里地里山保全利活用専門部会の平成 26 年度の活動報告 ・収穫祭との連携の案の確認 ・農と環境を活かした街づくり 黒川地区基本計画(案)の確認 ・平成 27 年度のデザイン祭(プレ)についての確認

1. 開会のあいさつ

2. 座長挨拶

【座長】 「明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会」は、黒川の自然と農を活かした新しい「何か」を打ち出していこうという事で行っており、今年度の議論のたたき台の中から基本計画作成を検討している。なかなかイメージが固まってこないが試行錯誤の中から、実のあるものを1つでも2つでも打ち出していければと思う。

3. 平成 26 年度の活動報告（中間報告）及び収穫祭との連携について

<平成 26 年度の活動報告（中間報告）及び収穫祭との連携についての資料説明>

【セレサ川崎】 「黒川のマップ作り」を行う事は良いが、収穫祭は明治大学の卒業生に案内を出して周知していた事もあり、黒川地区をきちんと認識している方がどれほど来てくれるのか、私たちが意図した事を書いて頂けるか疑問がある。

【座長】 川崎市や麻生区の方で体験ツアーと一緒にPRして頂きたい。

【セレサ川崎】 地元で、収穫祭についてのPRはしていないのか。

- 【管理組合】 「里山体験ツアー」のチラシは、黒川、はるひ野の全町会にお配りした。「里山体験ツアー」を行う人数は、15組30名位を予定しているが、チラシは全町会に回しているの
ので、収穫祭がある事も広報出来ていると思う。
- 【川崎市】 川崎市では、市政だよりの10月号で収穫祭について掲載させて頂いている。地域内
の住民にも理解してもらえていると思う。
- 【管理組合】 今回の体験ツアーは、協働推進課の作成した計画だが、竹鉄砲づくりも、どんぐりの
やじろベーづくりも、ゆっくり楽しんで作ってもらうのが優先だと思い、何度か協働推
進課と一緒にツアーコースを下見して、竹林で行うイベントを減らし、この計画を作成
した。
- 【セレサ川崎】 ゆっくり、のんびり行って頂いた方が、より自然に親しめ、理解も深まると思う。
- 【座長】 歩く距離はどのくらいか。
- 【協働推進課】 普通に歩いても2時間程度かかる。
- 【座長】 自然観察会のような自然を見ながら歩く場合は、時速1時間程度が普通である。これだけ
の距離で、途中でイベントを行うとすると、かなり早く歩かなければならない。ルート
のショートカットは出来るか。
- 【協働推進課】 黒川海道特別緑地保全地区から明治大学に来る間では、ショートカットできると思う。
- 【座長】 鉄砲作りのイベントは、竹林の脇で行うという事か。篠竹などは事前に用意しておくのか。
- 【管理組合】 黒川海道特別緑地保全地区の広場で行う予定だ。道具は事前に用意しておく。使用
する機材はカッターが何本かと、ワイヤーと結束バンドと、キリとして使う電動ドリル位
である。電動ドリルはこちらで用意する。
- 【セレサ川崎】 このような体験は、昔は普通だったが、今の子どもたちは篠もなく、行った事がないと思
うので、興味を持って楽しんでもらえると思う。
- 【座長】 やはり、この時間で出来るか心配だ。
- 【管理組合】 急かせては良くないので、時間を見つつ最後をショートカットするか、途中をカットす
るかであるが、カットするならば「イベント2」をカットしたらどうか。子どもたちにとっ
ては、説明よりも、ゆっくりと工作をした方が良い。広報は、今回は第1回目の試行な
ので、希望者が多く抽選となってしまう事がないように、あまりエリアを広げず、「は
るひ野小中学区」に絞った。上手くいけば、2回目3回目には余裕を持って出来る、よ
り効果的な説明場所の選択や里山のボランティアの人達や水辺の人達に専門的な話を
聞く事も可能になってくると思う。今回は幅を広げずに行きたい。
- 【座長】 「イベント2」の場所は、よこみね特別緑地保全地域の尾根を下っていくところか。
- 【協働推進課】 そうである。
- 【座長】 私も時々小学校の低学年相手に同様の事を行っている。私のイメージではこのスケ
ジュールでは時間が短い。もう少しカットして、工作の時間を取った方が良い。
- 【管理組合】 時間については、進行状況を見ながら行っていきたい。
- 【協働推進課】 現在、ゴールを12時と考えているが、多少時間が伸びても良いと思う。
- 【座長】 このイベントは、お弁当持参とするつもりか。
- 【協働推進課】 収穫祭で何か買って食べてもらおうと考えている。
- 【座長】 豚汁は配布する予定だが、お腹にたまるようなものはなかったと記憶している。収穫
祭で販売するものを食べるにしても、12時を過ぎてしまう可能性があるので、軽食
を持ってきてもらった方が良い。

- 【協働推進課】 お申込み頂いた方に連絡をするので、その中で飲み物や軽食をお持ち頂くよう案内する。
- 【座長】 内容は、大変面白そうだと思う。
- 【協働推進課】 可能であれば専門部会委員の皆様にも、このイベントにご協力頂きたい。

4. 農と環境を活かした街づくり 黒川地区基本計画（案）の確認

＜「農と環境を活かした街づくり 黒川地区基本計画（案）」の資料説明＞

- 【座長】 大変綺麗な流れが出来ていると思う。既に、来年度以降に保全管理という方向に話を進めていくための現状把握などは進めているのか。
- 【協働推進課】 「黒川地区 農と環境を活かしたまちづくり 基本情報(案)」くらいである。今後情報を集めていかなければならないと思う。
- 【座長】 実際に保全管理に関わっているグループ、ボランティア団体は、農家でご高齢の方が多いのか。保全活動を継続するには、若い人や、農家以外の方をどのように入れていくかが課題になってくる。その現状を伺いたい。
- 【道路公園センター】 麻生区のボランティアの方や町会の方たちと仲立ちをしながら、市民協働で緑地保全を実施している。基本的に緑地はなるべく地元の方に管理してもらおうというのが我々のポリシーでありスタンスである。しかし何処の町会でも高齢の方が公園を担っている事が一番の課題となっている。次の担い手を募る検討をし、参加する機会を与えても、なかなか入ってもらえない。その1つの取り組みとして、「里山ボランティア育成講座」を行っている。これは不特定の緑地で保全活動を開催し、その町会をアピールしながら、ボランティアの募集をしていくという事業である。
- 【管理組合】 黒川の中の市が買い取った山林については、公園センターの管理下なのか。
- 【道路公園センター】 維持管理は我々になる。一部、未だ我々に移管されていないところがある。
- 【管理組合】 この事業を継続していくには、緑を基盤としてどう整理していくが必要になってくる。黒川はるひ野については、川崎市の持っている緑地が多いと聞いている。シノダケがうっそうとする山里は、里山として管理出来ていないと感じる。我々は「黒川海道特別緑地保全地区」の管理をしており、シノダケ刈りを進めている。あのような里山としての景観をつくり出す事も必要だと思う。もう少し行政で行うか、我々地元でやってほしいのであれば、もう少し予算を付けて頂きたい。
- 【道路公園センター】 今2者に挟まれた立場に立たされている。この地区には中央部分に新興住宅地があり、そこに住んでいる方々の大半が、「与えられる物は全て綺麗である事が当たり前だ」という認識を持っている。また一方では緑地を綺麗にすることに対して、「何故、それ程お金をかけるのか」という意見も頂いている。
- 【管理組合】 住民は「ここは草を刈って欲しい」、「ここは刈っては駄目だ」と言っていると聞く。「この地区の緑地はこのようなスタンスで行っている」と伝えた方が良いのではないのか。
- 【道路公園センター】 お気持ちは分かるが、聞かない訳にはいかない。伺った上で、全体の中の意見として吟味している。ただ、仰っている方の生活に害が出ているようだ、我々としては個々の話として話を聞いていかなければならない。
- 【管理組合】 我々としては、その時に出た住民の意見だけで対処するという理屈が分からない。1人1人の住民の意見を聞きすぎてしまっているのではないだろうか。私は斜面地などは刈ってあった方が綺麗だと思う。

- 【道路公園センター】 確かに、今行ってくれている管理を「良い」と仰っている方もいる。我々も「良い」という意見も伺い判断をしている。
- 【管理組合】 先日「里山フォーラム」の方々70 人ぐらいが、「黒川海道特別緑地保全地区」を見学しに来た。その際に、里山というのは綺麗で継続して欲しい場所ではあるが、管理を行うには常に刈っている必要がある。ボランティアの話も、黒川では遊びで行うような人は断った方が良いと思う。ただ、後継者問題は確かに現実の問題だ。
- 【座長】 立ち上げた時の元気のいい仲間が段々と歳をとり、やりたかった事が出来なくなってくる。それを埋めるために人を入れていくのは重要。立場や意見が違ったりする人でも、取り入れていかなければ組織全体がつぶれてしまう。
- 【管理組合】 我々は元農家で、機械や山の管理の方法を知っている。それを知らない素人が、ただ山が好きだからと行っても同じ事は出来ない。高齢化の問題はあるが、緑の管理が「ボランティア任せで良い」と言う考え方は好きではない。
- 【セレサ川崎】 当初の協議会の目的は、「農家の高齢化問題があり、そこに明治大学の農場が出来たので、何か新しい発見や、新しいブランドが出来たりして、それを作って販売する事等によって所得が増える」というような、Win-Win の関係で回っていくものであった。更にそこから雇用が発生し、色々と新たなものが出てくるというように回っていく事を考えていたと思うが、具体的な内容は未だ出てきていない。そのような究極的な目的を再認識しながら行っていかないと、議論するだけで終わってしまう。人を集めるには「里地里山保全利活用専門部会」が一番良い例だが、地元にお金が落ちる、それが更に発展するのかがというのが見えてこない。それらが来年度以降の議論の核心であると考えて取り組んでいなければいけない。
- 【座長】 先日シンポジウムがあり、「お金の儲からない所で管理を行うのは難しい」という話をさせて頂いた。里山が綺麗であった当時は、里山がお金を生む場所であったから手入れを行っていた。現在はお金を生む場所ではなくなってしまったので、手入れをしなくなってしまった。ボランティアで守れる面積はたかが知れている。全国の 20%以上と言われている日本の里山を守っていくためには、お金の話とセットで考えなければいけない。この「里地里山保全利活用専門部会」は、人を集めたり人を楽しませる、その先に踏み込んでいきたい。保全管理がボランティアだけではなく、一般の農家の仕事として出来る話を進めていきたい。
- 【管理組合】 神奈川県の中には、黒川が里地里山指定を受ける何年も前から、里地里山指定を受けている場所がある。他の里地里山指定を受けている場所はどんな動きをしているのか。
- 【神奈川県】 今、情報を持っていないので、次回はそのような情報をお持ちしたい。
- 【管理組合】 お金にしていきたいのか、ただ里山で遊んでいるだけなのか精査して考えていかなければ実のない話になってしまう。来年、再来年に向けてはもう少し高嶺を目標としていきたいと思う。そのためには、色々な情報を得る事や、見に行く事も必要である。ただ里山があるだけではなく、特性を出していなければならぬと思う。
- 【座長】 小さな面積であるという事は、産業として考えても隙間産業を例として挙げられるように、1 つを捕まえればやっていける可能性がある。

5. 平成 27 年度のデザイン祭（プレ）について

<平成 27 年度のデザイン祭（プレ）について説明（コンサル）>

- 【管理組合】 地元の人が運送や材料調達を協力する例もある。石岡では、竹を使った大きなアートを作っていた。黒川も竹は豊富にあるので、あのような作品は良いと思う。ある程度の期間置ける場所として、緑地を開いて置くのも面白い。また、徳島の 1,700 人くらいの山村も、村民とともに、林材を使って 5カ所に立派なアートを作っている。そのような事が出来たら、情報発信として、ホームページなどを作るところまで持って行けたら面白いと思う。基本的には地域農業と山林をどう使っていかの話だが、アートとともに、野菜についても発信していく事で、農業の経営につなげ、最終的にはインターネット販売まで出来るような方向で考えたい。
- 【座長】 例に上がっている物は、単発なのか、毎年行っているのか。また、客寄せの基にしようというものなのか。それともアートづくりに参加しそれ自体を楽しめばよいというものなのか。
- 【管理組合】 アートは長い期間置いてあるようである。それを観光客が見に来る。徳島の場合はずが有名な場所で、ゆずの加工品と一緒に売っており、客寄せの 1 つとなっている。
- 【座長】 客寄せだとすると、継続して行わないと意味がなくなってしまう。
- 【麻生区】 今のところ、これは「プレ」という事で、行ってみてどのくらいお客さんが来るのかを見ながら、平成 28 年度以降に本格実施を行う事を考えている。毎年行っていくのかは、協議会の中で検討していきたい。
- 【座長】 お客さんがくればまたやる、こななければやらない、それを見定めるためのプレという事か。だとすると、プレをしっかり行わなければならない。
- 【麻生区】 多くの方が来てもらえるような仕組みづくりとして、ネットでの情報発信がある。既にホームページは立ち上げており、それを更新しながら、来場者数を多くする取組みを進めていく。
「お金が回る仕組み」は非常に重要である。アートイベントを行う事が目的ではなく、どこにお金を落とさせるか、どのように外の人を呼び込み保全活動に役に立って頂くかを検討するものである、行政も潤沢に予算をかけられる訳ではないので、地元で自立して続けられる、お金を回す仕組み作りの支援をしたい。
- 【管理組合】 確かにお金にならないと続かない。今の時期黒川農家の軒先に収穫をしないで置いてある禅寺丸柿を使い、人が来ることにつなげ、人が来てセレサモスで何か買い物をして帰って頂く事で、お金につなげていけるのではないか。
- 【麻生区】 地域活性化専門部会では、時期には少し遅いが、収穫祭時に禅寺丸柿を配る予定である。禅寺丸柿を知らない方も多いので、まずは知って頂く事が重要だと思う。
- 【座長】 今でも禅寺丸柿は販売されているのか。また、幾らくらいか。
- 【セレサ川崎】 今年は大豊作で、セレサモスにも毎日のように出品されている。先日の日曜日に行った麻生区民祭でも 300 個ほど持って行ったが、直ぐに売れた。
8 つで 300 円くらいだった。今年もワイン用に出荷し、5t位集まった。今年の 12 月位には 5000 本ほどのワインになって販売出来ると思う。今年 800 周年という事で、地域のイベントと絡めてPRを行っており、多くの皆さんに「禅寺丸柿はないのですか」という問い合わせがある。イベントを行えば人が集まるのは確かである。
- 【座長】 デザイン祭については、一回で終わりという訳ではなく、集客能力のあるイベントとし

て位置付けるためにどうしていくかという課題について意識を持って検討していければと思う。

6. 全体を通しての意見交換及び総括

- 【協働推進課】 本日は活動報告の再確認、収穫祭に向けた現状の報告と当日のご協力のお願ひ、平成27年度以降の活動の確認をさせて頂いた。詳細については今後の会議で決定していきたい。11月8日(土)収穫祭にてイベントを行うので、ご参加をお願いしたい。
- 【麻生区】 イベントを踏まえ、年度内に本日頂いた意見を取りまとめて、委員の皆様には年度内の最終報告という形で資料をお届けさせて頂く。
専門部会の開催については、来年度に入った5月に開催させて頂きたい。
- 【座長】 頻繁に行うのは大変だが、あまり間を開けてしまうのも良くないのではないか。
- 【麻生区】 専門部会は年度内に検討の場を設けさせて頂いても良いと思う。協議会に諮り、検討させて頂きたいと思う。
- 【管理組合】 明治大学の収穫祭に里地里山保全利活用専門部会では散策イベントを行うが、他の部会はどのような参加をするのか。
- 【麻生区】 地域活性化専門部会では、1つは禅寺丸柿の800周年という事で「かきまるくん」というキャラクターでPRするとともに、禅寺丸柿の試食という事で、柿の配布をする事を考えている。もう1つは昭和大学と連携し、サクスの四重奏の演奏会を行う。更にもう1つは、紅東やサラダハウレンソウなどの黒川産野菜を使ったナタネ油で揚げたドーナツの試食会をさせて頂く。また、黒川東地区の観光農園の協力を頂き、掘り取り体験を行い、その後収穫祭に来て頂こうと考えている。そして、それに加え、今の計画も踏まえたアンケート調査を行う。
- 【農地課】 農産物等研究専門部会は、農家に対する提案会は収穫祭に併せて行う事は出来ないが、農振地域内で障害者の作業所と連携して「かわさきハーブ」というハーブを作っているのを、それを加工して、ハーブティーの販売を行う予定である。また、農業振興課が中心となり、地産地消協議会でなるべく黒川の農作物を使用した豚汁の配布を行う。明治大学でも野菜を出すので、それと被らないような形で、セレスモスでの野菜の販売も行う予定である。
- 【座長】 中間報告、収穫祭関係、基本計画に、デザイン祭について、専門部会として承認で良いか。
- 【農業振興課】 収穫祭の際のイベントのルートだが、新しく入った住民の方と、昔から住んでいる農家の方達との交流がメインかと思うので、「勝手に何かやっている」というようにならないように、ルートの近隣の方たちに、イベントの概要などについての案内を行った方が良い。
- 【協働推進課】 必要に応じて、地元の人とお話しながら行っていきたいと思う。

7. 閉会のあいさつ

- 【協働推進課】 ご意見ありがとうございます。これをもちまして、第2回里地里山保全利活用専門具会を終了させて頂きたいと思う。ありがとうございました。

以上